

吉田谷古墳群

～伊賀市才良字吉田谷～

現地説明会資料

2010/01/30

三重県埋蔵文化財センター



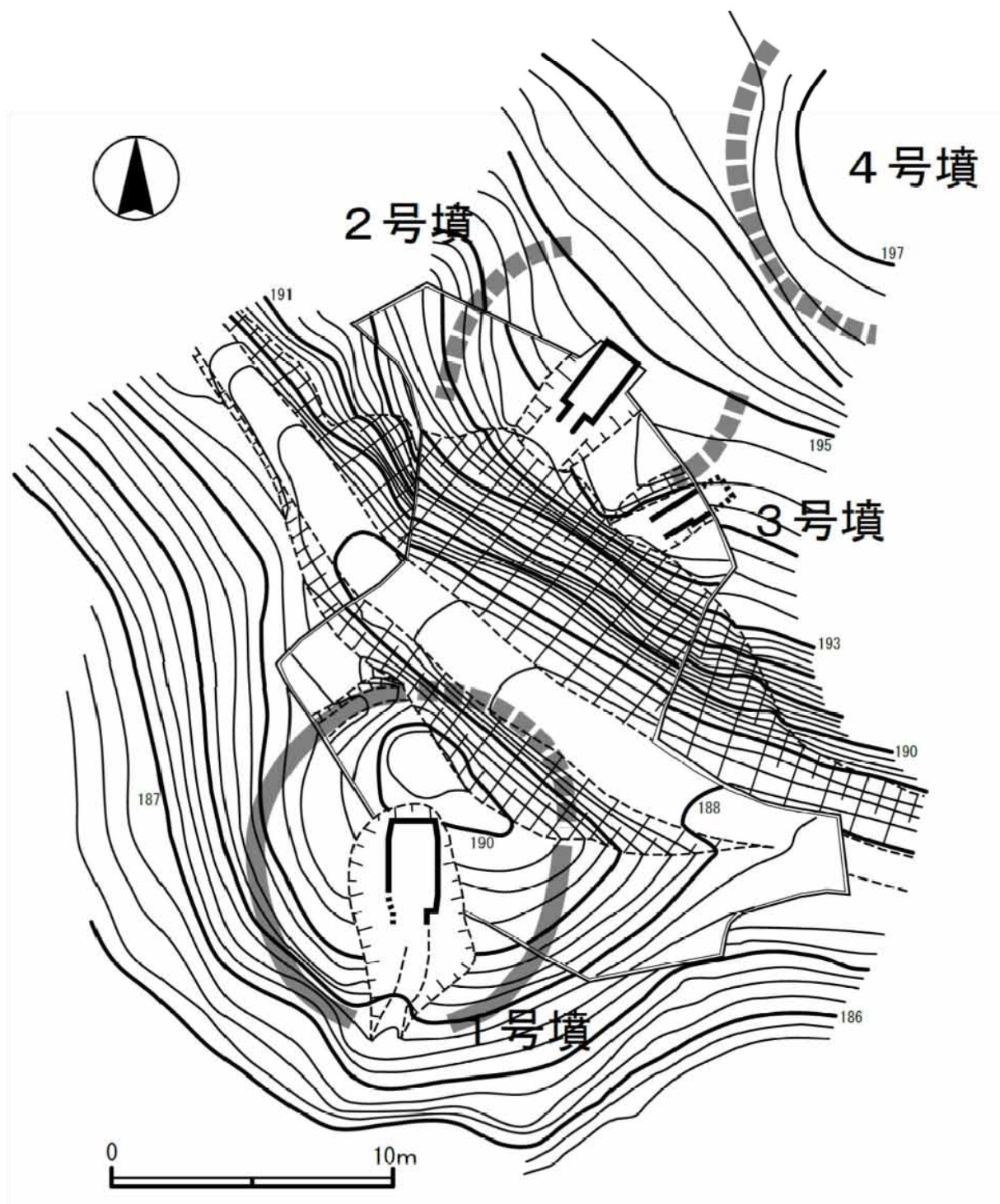
吉田谷2・3号墳

吉田谷古墳群は、伊賀市才良字吉田谷にあります。今から1400ほど前、古墳時代後期の遺跡です。所在地は、伊賀市立丸山中学校の北東部にある山の中です。南側に延びる尾根の上にあります、さらに南には柘川の集落があります。

周辺には、戦後間もなく調査され、多数の優秀な副葬品と埴輪で全国的に有名となった石山古墳（古墳時代前期初頭）のほか、王塚古墳（古墳時代後期）や才良廃寺（奈良時代から鎌倉時代）などの重要な遺跡が数多くあります。



吉田谷古墳群の位置と周辺遺跡の状況（国土地理院 1/25,000 『伊勢路』より）



吉田谷古墳群 遺跡平面図

調査の成果

今回の発掘調査は、のうめんのうどう農免農道の建設事業に伴って実施したものです。発掘調査に入る前から1号墳があることは分かっていたましたが、調査の結果、その上に2・3号墳のあることがわかりました。

それでは、それぞれの古墳の状況を説明しましょう。



1号墳石室



1号墳出土の馬具



1号墳石材の楔穴（羨道に散乱した石材）

【1号墳】

<墳丘> 発掘調査地には、才良地区と栢川地区とを結ぶ山道が通っています。1号墳はこの道の南側にあります。

古墳の北側は山道で削られています、その手前に周溝の一部が見つかりました。そこから復元すると、直径1.2mほどの楕円形をした円墳であることがわかりました。

周溝には、須恵器の甕の破片がちらばっており、つなぎ合わせてみるとひとつの大きな甕になりました。古墳の上に置かれていたものが転落したと考えられます。

<石室> 古墳の中央には横穴式石室がありました。羨道部は調査区の外側にのびているので、石室の全体規模は分かりませんが、玄室は長さ約3.2m、幅約1.8mで、左側にのみ玄門を持つ「左片袖式」であることがわかりました。石室は、一番下の石（腰石）を立てて並べ、その上には横に積み上げるようにして部屋をつくっています。玄室の側壁は少し丸みを持っているという特徴があります。

玄室は鎌倉時代（今から800年ほど前）の人々が何かに使ったようで、床面には大小様々な窪みができていました。

<遺物> 鎌倉時代に使われたためか、古墳に葬られた人に関する遺物はごくわずかで、完全なものはほとんど無くなっていました。それでも馬具の破片、金環2個、ガラス玉、須恵器片などが見つかっています。とくに馬具は金銅装（銅芯に金箔を貼ったもの）で、大変優秀なものです。

<時期> 見つかった遺物には7世紀初頭頃のものがあります。石室のかたちから見ると、もう少し古い頃に作られていた可能性があります。

<その他> 調査区外ですが、1号墳の羨道付近にはこの古墳の石材が散乱しています。この石をよく見ると、矢穴（楔穴）があります。矢穴は小形のため、江戸時代中期以降のものと考えられます。おそらく、古墳の石を他で使うためにここで割っていったと考えられます。

【2号墳】

<墳丘> 山道北側の高いところから見つか



2号墳石室



2号墳の遺物出土状況



3号墳の遺物出土状況

りました。周溝は見つかっていませんが、直径10mほどの円墳と考えられます。

<石室>古墳の中央に両袖式^{りょうそでしき}の横穴式石室がありました。石室はほぼ全体が確認でき、全長約4.2m、玄室長約2.8m、玄室幅約1.6mです。羨道は短く、長さ1.4mしかありません。全体に、1号墳よりも一回り小さい石室です。石室の石積みは1号墳に似ていますが、1号墳よりも角張った石を使っています。

<遺物>石室が早くに崩落したためか、石室床面から多くの遺物が見つかりました。玄室内の右玄門付近と奥壁付近の2ヶ所には、須恵器・土師器がまとまって置かれていました。また、石室内には木棺^{もっかん}が置かれていたようで、棺を留める釘^{くぎ}が数本出土しています。棺があったと考えられる位置からは、刀子^{とうす}(小形のナイフ)が3点見つかりました。

2号墳の遺物は、1号墳に比べると優秀なものは少ないですが、床面の遺物は当時置かれたままと考えられ、死者を^{とむら}弔う「儀礼^{ぎらい}」の様子が詳しくわかりそうです。<時期>見つかった遺物は7世紀前葉頃の時期を示しています。1号墳とよく似た時期ですが、1号墳よりも少し新しい時期と考えられます。

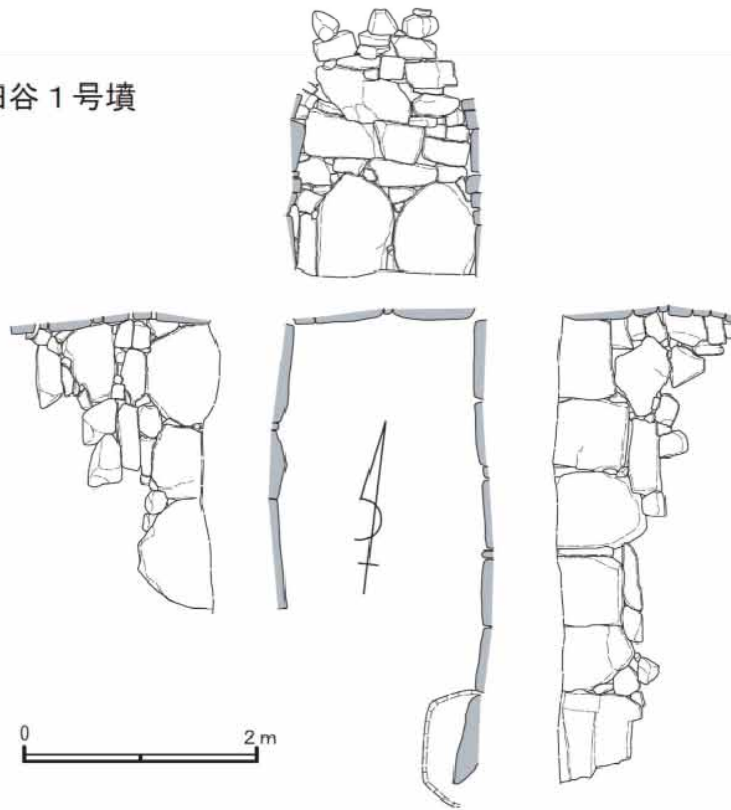
【3号墳】

<墳丘>3号墳は、2号墳の東側周溝にあたる場所に作られた石室です。2号墳の墳丘に寄せられるように造られているため、独自の墳丘は造っていないと考えられます。

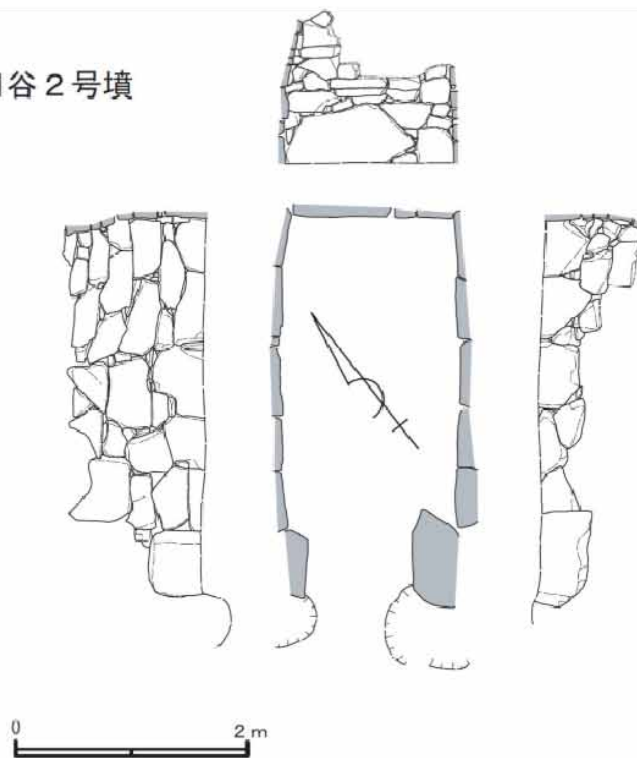
<石室>奥壁は調査区の外に広がっているため、石室の規模は不明です。分かっているのは、羨道幅約1m、長さ約1.5mで、玄室は幅約1.1m、長さ80cm以上です。使われている石は小振りで石室の規模も小さいですが、それでも立派な左片袖式の横穴式石室です。

<遺物>この石室も早くに崩落したためか、石室床面からは多くの遺物が見つかりました。玄室内の玄門寄りには、2号墳とよく似た状態で須恵器・土師器がまとまって置かれていました。また、玄室内からは全長約75cmの鉄刀が見つかりました。刀

吉田谷 1号墳



吉田谷 2号墳



吉田谷古墳群 1・2号墳の石室

があるので、2号墳よりも立派にみえます。

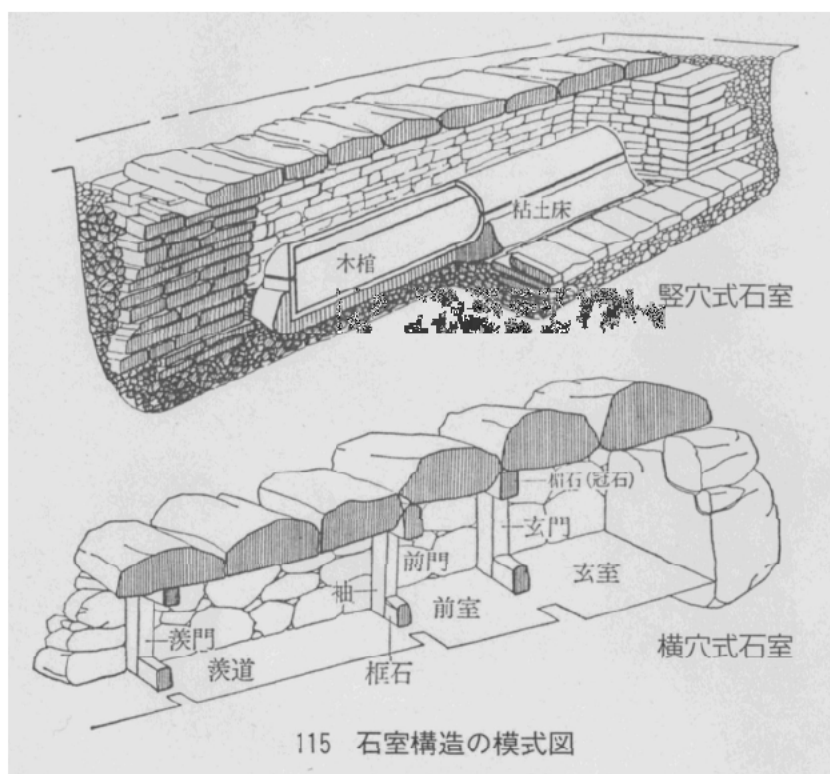
<時期>見つかった遺物は7世紀前葉頃のもので、3号墳の石室は2号墳の墳丘が造られた後のものですので、2号墳よりも少し新しい時期のものと考えられます。

まとめ

発掘調査の結果、吉田谷古墳群は7世紀初頭頃に造られた古墳群であることがわかりました。なかでも1号墳は、石室の形態や出土遺物(馬具)から、この地域に君臨したかなりの有力者であると考えられます。

吉田谷古墳群は、今回発掘調査した1～3号墳以外にも10基以上あります。これらのなかには1～3号墳よりも古い可能性がある古墳もあります。吉田谷は、古墳時代を通じて古墳が造られ続けた場所と考えられます。

吉田谷古墳群の南を流れる比自岐川を少し遡ると、石山古墳があります。吉田谷1～3号墳よりも200年ほど前、石山古墳に葬られた人物は、当時の比自岐川流域だけでなく、木津川流域全体にまで勢力を有した一大権力者と考えられます。そして吉田谷1～3号墳から数十年後には才良廃寺(財良寺)が建立されました。才良廃寺は伊賀有数の古代寺院です。吉田谷古墳群は、石山古墳や才良廃寺を造立した地域勢力が、この地域に連綿と強い力を保ち続けていたことを物語っています。



勅使河原彰『埋もれた歴史を掘る』(白鳥舎、1999年)より引用

調査遺跡名 吉田谷古墳群

所在地 三重県伊賀市才良字吉田谷

原因事業名 平成21年度農免農道事業(伊賀依那古2期地区)

調査実施機関 三重県埋蔵文化財センター